

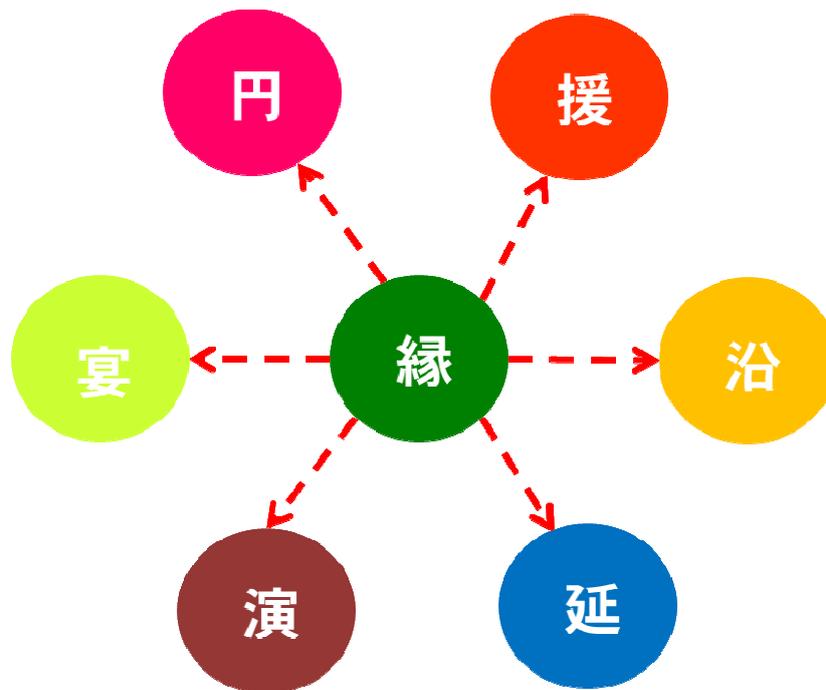
「良いnetwork」と「悪いnetwork」

修士課程2年 中村哲也（大田原キャンパス）／社会福祉協議会職員

ゆき先生やご登壇された皆様のお話を聞いて、「縁」とは何かあらためて考えてみました。

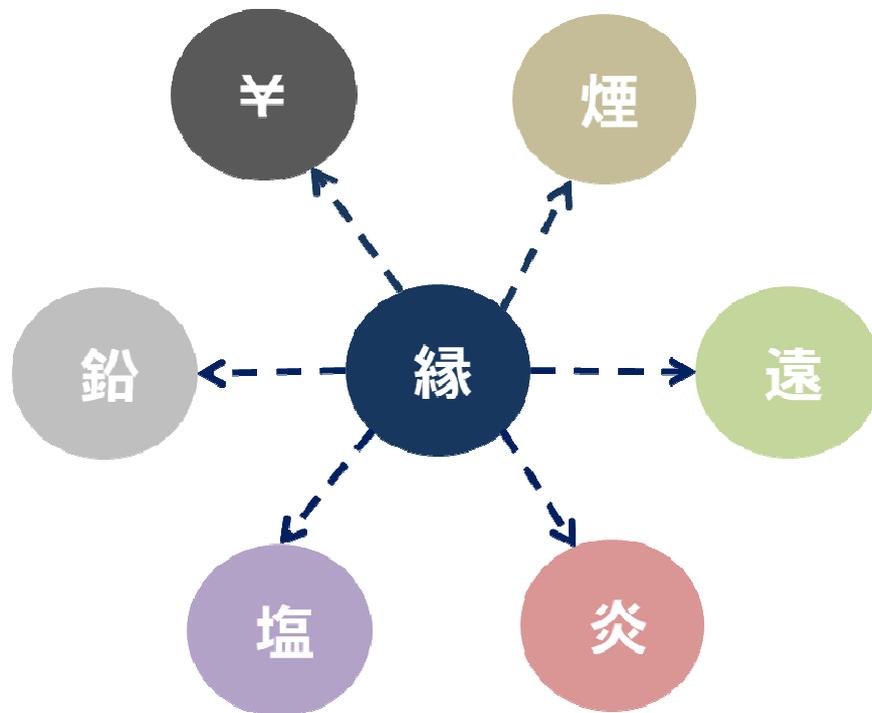
目には見えないけれど、なんとなく感じられる「縁」。この不思議な感覚をなんとか自分なりに表現してみたい。そう思って、ゆき先生が講義の中でお話しされていた「良いネットワーク」と「悪いネットワーク」を考えながら、今回は文章ではなく図で表現してみました。（勝手なことをしてすみません。）

まずは、「良いネットワーク」から



- 「円」は人の繋がりによって、欠けることの状態をつくる（排除しない）
- 「援」は人の繋がりによって、助け合う関係ができる。
- 「沿」は人の繋がりによって、一緒に沿いながら歩みを進めることができる
- 「延」は人の繋がりによって、さらに人が繋がりへと延びていく。
- 「演」は人の繋がりによって、役割がうまれる（演じる舞台ができる）
- 「宴」は人の繋がりによって、楽しい宴会ができる

一方、悪いネットワークは



- 「金の切れ目が、縁の切れ目」
- 「煙たがれる関係」
- 「近寄りがたい関係」
- 「火花がでるほどの対立関係」
- 「しょっぱい関係」
- 「一緒にいるだけで重く（鉛）なる存在」

どちらも、“縁”が「良い方向」にも「悪い方向」にも向く可能性があります。様々な“えん”がありますが、本質は「人」にあること。そして「出会い」がなければ始まらないこと。

そして出会う「場」が必要なこと。

ゆき先生の講義を通して、様々な出会いと学びと良い縁を繋いでいきたいと思っています。